

選択項目の意義と目的

<p>胃部X線検査</p>	<p>胃がんはがん死亡原因の3位になりましたが、依然として高率で発生しております。部位別罹患数では2位ですが、健康診断での早期発見が可能です。また治療方法が進んだ為に治る方が多くなっています。バリウムを飲んでレントゲンで検査します。5分程度で終了します。</p>
<p>大腸がん検査 (便潜血反応)</p>	<p>食生活の欧米化で急激に増加しているがんです。男性ではがん死亡の3位に、女性では1位となっています。便の中に血液が潜んでいないかを調べます。陽性の場合には内視鏡を受けて出血の原因を確認することになります。</p>
<p>腹部超音波検査 (腹部エコー)</p>	<p>主に肝臓・腎臓・すい臓など腹部臓器の異常の有無を超音波で検査する方法です。この検査は苦痛もなく7～10分程度で終了します。</p>
<p>肺マルチスライス CT</p>	<p>がん死亡の中でもトップを占める肺がんの早期発見に威力を発揮します。胸部X線検査では見逃す恐れのある小さな肺がんをキャッチします。(金沢会場のみ)</p>
<p>乳がん検査 (マンモグラフィ法)</p>	<p>従来の医師による視・触診法では見逃す恐れのある小さいがんの早期発見に威力を発揮します。乳がんは、30歳代後半から増え始め、40歳代でピークになります。また、9人に1人が生涯の間に乳がんにかかると言われていています。(金沢会場のみ)</p>
<p>骨密度測定</p>	<p>女性に多い骨折による寝たきりを防ぐため骨の密度を測定して、骨粗しょう症予防の手立てとします。(金沢会場のみ)</p>
<p>眼底・眼圧検査</p>	<p>動脈硬化性の変化や緑内障の発見に役立ちます。</p>
<p>前立腺がん検査 (PSA)</p>	<p>50歳以上の男性に多くなる前立腺がんの腫瘍マーカーで、血液で検査します。</p>
<p>ABC検診 (胃がんリスク健診)</p>	<p>血液検査(ピロリ菌抗体検査とペプシノゲン検査)による胃がんリスクスクリーニングです。胃がんそのものを見つけ出す検査ではありません。ヘリコバクターピロリ菌の感染とそれに伴う胃粘膜の萎縮が胃がんの発生と関連があると考えられています。但し、胃切除した方や過去に除菌治療した方など結果が正しく出ないため検査ができません。</p>